

もくじ

▽国際会議案内	1
▽大会案内	3
▽研究部会レポート	4
▽若手の会レポート	4
▽大会報告	5
▽受賞者のことば	5
▽研究奨励発表会レポート	6
▽今後の学会関連行事	7
▽from Editors	7

【国際会議案内】

第 10 回国際生理人類学会議の
ご案内 ー第 4 報ー

国際担当 原田 一（東北工業大学）
恒次祐子（森林総合研究所）

第 10 回国際生理人類学会議は、Bittles 先生
(Centre for Human Genetics, Edith Cowan
University, Perth) のお世話により開催されます。
多数の発表申し込みがあり、順調に準備が進んで
いるようです。

ICPA2010HP:

<http://www.geneticsandpopulationhealth.com>

会議長：Prof. Alan Bittles

会 期：2010 年 9 月 9 日（木）～ 12 日（日）

場 所：Esplanade Hotel Fremantle,

フリーマントル, オーストラリア

メインテーマ：Peoples and Places

サブテーマ：

- 1) Physiological variation and adaptation
- 2) Genetic variation and adaptation



3) Chronobiological variation including
secular trend

4) Bio-cultural adaptation including
technological adaptability

スケジュール：

9 月 9 日（木）：登録および歓迎会

9 月 10 日（金）：セッション，若手の会，
ポスター発表（予定）

9 月 11 日（土）：セッション，IAPA General
Assembly，バンケット

9 月 12 日（日）：セッション

招待講演者としてアンデス・チベットなどにおける
高地適応研究の第一人者である Cynthia M
Beall 教授（米国ケース・ウェスタン・リザーブ
大学）が招聘されています。

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

なお、プログラムの詳細については分かり次第、学会 HP にてお知らせいたします。

<http://www.jspa.net/frame/related/ICPA10th/ICPA2010.html>

登録：

早期参加登録期間

2010年4月12日（月）～7月31日（土）

登録費

4月12日（月）～7月31日（土）

参加者 55,000円

同伴者 26,000円

学生 26,000円

8月1日（日）以降

参加者 A\$750

同伴者 A\$350

学生 A\$350

1日参加の場合

参加者 A\$275（23,000円）

同伴者 A\$125（10,500円）

学生 A\$125（10,500円）

※1 A\$：オーストラリアドル

※2 学生参加の場合、指導教員の証明書を送付する必要があります。

7月31日（土）までの登録費支払いは、円建てにて以下までお振込ください。担当がまとめて送金します。なお、振込手数料はご負担ください。

別途メールにて大会参加者の所属・氏名・参加方法（一般参加/同伴者/学生）を下記までご連絡ください。登録費の支払いとメールでの連絡が揃った時点で参加登録がなされたものとします。

恒次祐子：yukot@ffpri.affrc.go.jp

8月1日（日）以降は会議 HP をご参考に各自直接送金してください。

7月31日（土）までであってもドル建てでのお支払いを希望される方は、各自直接送金してください。

【郵便振替の場合】

口座名 第10回国際生理人類学会議

記号 10660 番号 32118351

【銀行振込の場合】

ゆうちょ銀行

店名 〇六八（ゼロロクハチ）

店番 068 普通口座 口座番号 3211835

※参加費の領収証は大会会期中に発行される予定です（振込みに対する領収証を大会前に発行することはできません）。また、念のため送金書の控えを保管してください。

発表申し込み：
終了しました。

ホテルの予約：
会議 HP にてホテル情報が掲載されていますので、各自で手配願います。

アクセス：
成田から直行便で約10時間。日本とパース間はカンタス航空が直行便を週に3便運航。
シンガポール航空（シンガポール経由）がシンガポール経由パース行きの便を毎日運行しています。その他、マレーシア航空（クアラルンプール経由）、タイ航空（バンコック経由）、キャセイパシフィック航空（香港経由）なども利用できます。

カンタス航空の場合（6月現在発表されているフライトスケジュールですので、ご参考まで）
東京→パース（月・水・土曜日運航）
成田 20：40 発 パース 6：05 着（翌日）
パース→東京（火・金・日曜日運航）
パース 22：55 発 成田 9：55 着（翌日）

パース国際空港からフリーマントルへはシャトルバスまたはタクシーがあります。シャトルバスで Esplanade Hotel まで直行することも可能です。タクシーの場合は約60ドルです。

フリーマントルはパース市の南西約20kmに位置する港町で、第二次世界大戦時には、連合軍の潜水艦基地として使用されていました。歴史のある建物が並ぶ町並みが有名で、週末には1897年から続く「フリーマントル・マーケット」が開催され、多くの観光客が訪れています。特に9月は初春なので、比較的過ごしやすい気候です。

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

フリーマンタルの情報はこちらから：

<http://www.fremantle.wa.gov.au/>

お問い合わせ：

会議全般に関するお問い合わせは：

東北工業大学 原田一

Tel: 022-304-5575

E-mail: h-harada@tohtech.ac.jp

若手の会については：

九州大学 若林斉

E-mail: waka@design.kyushu-u.ac.jp

若手の会に関する電話でのお問い合わせは：

森林総合研究所 恒次祐子

Tel: 029-829-8310 まで

【大会案内】

第 63 回大会（2010 年千葉）の お知らせ ー第 2 報ー

大会長 岩永光一
(千葉大学大学院)

暑中お見舞い申し上げます。下記の通り第 63 回大会の第 2 報をお届けします。

初日（10 月 30 日）の午後は、2 つの企画セッションと懇親会を続けて行う予定です。生理人類学の薫りを満喫し、秋の夜長を存分に楽しんでいただければ幸いです。多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております（詳細は学会ホームページ <http://www.jspa.net/> をご覧下さい）。

記

1. 会期：2010 年 10 月 30 日（土）・31 日（日）
2. 会場：千葉大学けやき会館（千葉市稲毛区弥生町 1-33）
3. プログラム概要（日付は予定です。学会 HP に掲載されるプログラムで確認してください。）
 - 1) 一般口演（10/30・31）
 - 2) ポスターセッション（10/31）
 - 3) 企画セッション（10/30）

- 4) 総会（10/31）
- 5) 2009 年度学会各賞授賞式（10/31）
- 6) 懇親会（10/30）
4. 企画セッション（10 月 30 日（土）午後）
 - 1) シンポジウム「生理人類学の体系ーあれから. そして, これからー（仮）」
安陪大治郎先生（九州産業大学）、小林宏光先生（石川県立看護大学）、恒次裕子先生（森林総合研究所）、安河内朗先生（九州大学）、岩永光一（司会・千葉大学）
 - 2) 鼎談「人間を理解するということー生理人類学の人間観ー（仮）」
佐藤方彦先生（九州芸術工科大学名誉教授・前日本生理人類学会会長）、樋口重和先生（九州大学）、福島修一郎先生（大阪大学）
5. 演題申し込み等日程・方法
 - 1) 演題申し込み締め切り：2010 年 9 月 3 日（金）
 - 2) 抄録締め切り：2010 年 10 月 1 日（金）
 - 3) 学会ホームページの開催案内で申込書をダウンロードして、大会事務局までお送り下さい。
6. 大会参加費・懇親会費
 - 1) 大会参加費：
 - ・10 月 1 日以前：正会員 6,000 円、非会員 9,000 円、学生（正会員/学生会員）2,000 円、学生（非会員）3,000 円
 - ・10 月 2 日以降：正会員 7,000 円、非会員 9,000 円、学生（正会員/学生会員）3,000 円、学生（非会員）4,000 円
 - 2) 懇親会費：正会員 4,000 円、非会員 5,000 円、学生（正会員/学生会員/非会員）2,000 円
 - 3) 振込先（郵便振替）：日本生理人類学会第 63 回大会事務局 00170-2-565899
7. 大会事務局（問い合わせ先）
石橋圭太：千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻人間情報科学研究室
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
電話/ファクス：043-290-3093（石橋）
E-mail：jspa63@mail.goo.ne.jp

【研究部会レポート】

体温調節研究部会設立のお知らせ

山崎和彦
(実践女子大学)

体温調節は生理人類学における中心的テーマのひとつです。そして労働、運動、衣服、空調、健康、栄養、睡眠、生体リズム、快適性などに広く関わっているからには、研究者は連携して事に臨むのがよいといえるでしょう。

本研究部会の活動方針については、当面は情報交換を主体とし、会員の総意に従い、発展する運命にあるならそれなりに発展すればよいといえます。入会申込は次のアドレスへお願いします。

yamasaki-kazuhiko@jissen.ac.jp

* * *

以上で用件は済んだので、これよりしばらく戯れ文を綴ることとする。

私は根が怠惰である。私学に職を得て多忙感と共に暮らしている。然るになぜ標記研究部会の設立を提案したのか。本学会には温熱や体温調節を扱う、そのものズバリの名称の研究部会が必要であると考えた、というのは全き事実だが、我が意識に延縄漁をしかけたら、何か新しい遊びを始めたいと思った、というものが引っ掛かった。

四年前の夏、企画担当が肝煎りの土曜会において何かしゃべれと命じられたので、三浦半島の集合場所へと出掛けた。その折「ひらめきトキメキ研究部会」の設立を提案したが誰も乗って来なかった。以来、私は年々進化し、真っ当な名称の研究部会設立を提案するに至った。しかし伏流として先のイメージがあり、私個人としては「ひらめきトキメキ体温調節研究部会」と思っている。

そもそも研究はホイジンガの云う「遊び」である。一人遊びはよいものだが、仲間が集まると遊びの幅が広がる。研究を遊び、遊びのような研究を行い、果ては単に遊ぶ。どのように転んでも大変結構なことである。

【若手の会レポート】

第16回若手研究者発表会

小崎智照
(労働安全衛生総合研究所)

若手の会は、生理人類学の若手研究者同士の交流を深め、若手の研究の活性化を目的として活動しています。現在の主な活動は学会大会時に行われます「若手研究者発表会」です。今回は、第62回大会の前日に行われました「第16回若手研究者発表会」について、ご報告いたします。

今回は、高橋隆宣さん(大阪市立大学大学院)にご発表をいただき、私も発表させていただきました。高橋隆宣さんは「高齢者の身体活動量と歩行速度の関係について」という題目で、若年者と高齢者を対象に、指定した歩幅で歩行した際のふらつきの違いと歩行速度との関係についての発表がありました。この発表に対して、各被験者を任意の速度で歩行させた場合の違いや、転倒経験のある高齢者の歩行速度の違いなどについて質問がありました。私は「空間認知に関する性差とその要因について」という題目で、空間認知課題においてどのようなパフォーマンス指標に性差が存在するのか、また、その指標の個人差に性ホルモンといった要因がどのように関係するのかについて発表させていただきました。この発表に対して、異なる文化圏での違いや空間認知以外の認知機能に関する性差について質問をいただきました。また、発表会後の懇親会では若手研究者の交流が深められ、非常に有意義な会であったと思います。本会の開催に対して、大会長の井上芳光先生を始め事務局の皆様には多大なご協力をいただきました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。今後とも若手の会の活動ベースとして発表会を続けていきたいと考えております。

現在、予定されている今後の若手の会の活動は以下のとおりです。

・第17回若手研究者発表会

第63回日本生理人類学会(千葉大学)の前日に開催を予定しております。なお、第17回以降の発表者を随時募集しております。現在進行中で研究結果がまとまっていないものでも、参加者からの

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

意見を聞くことができる貴重な機会となると思います。皆様からのご発表と多数のご参加をお待ちしております。

上記を含めた若手の会の行事等については、会員メーリングリストと若手の会メーリングリストでお知らせしております。

メーリングリストも含め上記の問い合わせについては、若林斉（九州大学：waka@design.kyushu-u.ac.jp）までお願い致します。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

【大会報告】

第 62 回大会（2010 年大阪）を終えて

大会長 井上芳光
（大阪国際大学）

生理人類学会第 62 回大会を終え、あっという間に 1 ヶ月が経過しました。本大会を振り返ってみますと、登録参加者は 132 名（そのうち学生参加者が 28 名）、会員以外のシンポジストと賛助会員の招待参加者などが 8 名で合計 140 名の参加者でした。また、懇親会の参加者が 94 名（学生 19 名）で、大会へ参加いただいた方の 2/3 が懇親会にも参加していただきました。学会会場のみならず、懇親会場でも生理人類学の輪を広げていただけたものと確信いたしております。これも大会を支えていただきました、実行委員の先生方、協賛企業の諸社、アルバイトの学生諸君のご協力・ご支援の賜物と改めて御礼申し上げます。

本大会の講演・発表といたしましては、九州大学芸術工学府の栃原裕先生による特別講演、2 つのシンポジウム、学会員の口頭発表 30 題とポスター発表 18 題でした。栃原先生の特別講演「日本人の入浴」では、高温湯浴を好む日本人の入浴スタイルが人体に及ぼす影響について、その利点と問題点を生理人類学的視点からお話いただきました。シンポジウム I では下村先生（千葉大学）を中心に、「気楽に生理人類学」を企画いただきました。タイトルどおりに生理人類学を気楽に身近に感じていただけたものと思います。シンポジウム II では近藤先生（神戸大学）を中心に「ヒトとしての

身体機能調節の特徴—他の動物との比較から—」を企画いただきました。新進気鋭の先生方の発表に圧倒されたのは、私だけではなかったことと確信いたしております。

さて、学会員の口頭発表、ポスター発表のうち前者の 12 題と後者の 9 題が 30 歳以下の発表奨励賞の対象でした。この PANews の紙面をお借りして、選考結果を発表させていただきます。発表奨励賞（口頭発表部門）には、日本女子体育大学附属基礎体力研究所の大上安奈さん（静的運動時における非活動肢の静脈血管応答に対する運動強度の影響）と九州大学統合新領域学府ユーザー感性学専攻の末吉可奈さん（他者行動の観察とミラーニューロン：脳波の Mu 波抑制の頭皮上分布について）、発表奨励賞（ポスター発表部門）には九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻の佐藤裕俊さん（男子大学生の起床時コルチゾール反応と性格特性及び生活習慣との関連性）がそれぞれ選出されました。この表彰は第 63 回大会の懇親会（千葉大学）で行われます。3 名の若手研究者の皆さん、本当におめでとうございませう。

最後に、大会運営等に何かと不手際があったこととは存じますが、ご容赦くださいますようお願いして、第 62 回大会の終了をご報告いたします。ありがとうございました。

【受賞者のことば】

2009 年 9 月に東京家政大学で行われました日本生理人類学会第 61 回大会（大会長：市丸雄平先生）における研究発表で発表奨励賞を受賞した 2 名の受賞の弁を以下に掲載いたします。

発表演題：寒冷暴露時の生理心理反応とミトコンドリアハプログループの関係

西村貴孝

（九州大学大学院・日本学術振興会特別研究員 DC）

この度は、このような栄誉ある賞に選んでいただき深く感謝致します。これもひとえに周りの皆様様の支えがあってこそその受賞だと思います。特に常に私を激励し、親身にご指導いただいた綿貫茂喜先生には感謝の言葉が尽きません。また、多くの貴重なご指導・ご示唆を頂いた安河内朗先

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

生に感謝申し上げます。全ての方の名前を挙げることはできませんが、実験及び解析に関わった全ての方々に御礼申し上げます。

私の発表は mtDNA 多型と寒冷暴露時の生理反応の関係性についてのものでしたが、今さらながら遺伝型を扱う研究の難しさを痛感しております。生理的多型を遺伝型から説明しようとする、他に作用しそうな要因を全て削った上で言及する必要があります、それらをどのように統制するか日々頭を悩ませております。しかしながら、遺伝的多型から説明できる個人差も存在するはずであり、「生理人類学における遺伝とはなにか」を今後とも実験を伴って研究を深めていければと思います。

最後になりましたが、私は生理人類学という学問と多くの先生・先輩方に出会えて本当によかったと思います。未熟者ではありますが、今後ともよろしくお願い致します。

発表演題: Thermoregulatory responses to heat in Japanese and Malaysian males

Titis Wijayanto
(九州大学大学院)

この度、留学生特別賞を受賞することができ、心より光栄に思っております。市丸先生から受賞のお知らせを頂いたときは、信じられませんでした。本研究での苦労とともにいろいろな方々への感謝の気持ちが込み上げてきました。この研究は、私にとって初めての共同研究で、しかも栃原研究室のトップレベルの研究員の方々と一緒に研究を進めてまいりましたので、とても緊張しました。しかし、多くの方から研究についてのアドバイスを頂くことで、なんとか研究を進めることができました。

今回の受賞は、栃原裕先生、モハメッド・サアト先生、若林斉さん、李珠英さん、橋口暢子さんをはじめとする九州大学のみなさまが暖かくご支援くださったお陰です。本当にありがとうございました。この研究が生理人類学会にとって有効な研究となり、さらなる発展に貢献できることを切望いたします。今回頂きましたこの賞を今後の研究の励みにして、研究者としての自覚を大切にこれからも精進してまいりたいと思います。

【研究奨励発表会レポート】

第4回研究奨励発表会の報告

樋口重和
(九州大学大学院)

昨年度の2月13日(土)に九州大学(大橋キャンパス)で第4回研究奨励発表会を開催しました。過去3回はすべて東京開催で、今回が初めての東京以外の開催でした。この発表会は、大学生および大学院生が萌芽的な研究を発表する場です。地方の大学生が東京の発表会に参加するのは経済的な負担も大きいため、地方での開催が望まれていました。当日は、福岡以外にも長崎県や熊本県からの参加がありました。全部で15演題が集まり、約50名の参加がありました。学部4年生のフレッシュな発表や大学院生のちょっと円熟した発表に対して、会場からの活発な質問や教育的なコメントがあり、非常に充実した発表会でした。発表者およびその指導に当たられた先生、会場まで足を運んで頂いた多くの方々に深くお礼申しあげます。

当日は、参加者全員の投票によって、すぐれた発表を選出し、優秀賞として表彰しました。以下の3名の発表が優秀発表賞に選ばれました。片山徹也氏(長崎県立大学)「コンピュータ画面の明度条件がアクセシビリティと疲労感に及ぼす影響」、黒岩光香氏(九州大学)「日本人男女における大腿前面の筋硬度と関連要因」、末吉可奈氏(九州大学)「他者行動の観察とミラーニューロン:脳波のMu波抑制の研究から」。おめでとうございます。

また、教科推進担当理事と共同企画も行いました。「大学院での研究」というテーマで、若手研究者の津村有紀先生(純心短期大学)と、現在博士後期課程で研究者を目指す高橋隆宜氏(大阪市立大学)から、後輩たちへメッセージを送ってもらいました。大学院での研究することの喜びがダイレクトに伝わる非常によい話でした。私自身もお二人の話で初心を思い出すことができました。発表会修了後は、キャンパス内で懇親会を開きました。発表会の緊張から解放され、研究だけでなく色々な話題が夜遅くまで尽きることはありませんでした。この会が、生理人類学の将来を担う若者の発掘につながることを期待しています。今

本文中のメールアドレスは、@を全角に変換してありますのでご注意ください

年度からは関西地域での開催も計画しています。
是非ご期待ください。

【今後の学会関連行事】

第10回国際生理人類学会議

会議長：Alan Bittles 教授
会期：2010年9月9日（木）～12日（日）
（9月9日（木）は登録および歓迎会）
場所：Esplanade Hotel Fremantle
（フリーマントル，オーストラリア）
連絡先：原田一
h-harada@tohtech.ac.jp

日本生理人類学会第63回大会

会期：2010年10月30日（土）・31日（日）
場所：千葉大学けやき会館
（千葉市稲毛区弥生町）

2010年度 生理人類士資格認定試験

受験申込期間：
2010年10月1日（金）～10月12日（火）
受験申込先：
各指定校在学の受験希望者・・・各指定校責任者
それ以外の受験希望者・・・学会事務局
試験実施日時：
準1級・2級・・・2010年11月27日（土）
13：00～14：00
1級・・・2010年11月28日（日）
13：00 開始予定
試験実施会場：
準1級・2級・・・各指定校試験会場
1級・・・(株)国際文献印刷社・
江戸川橋会議室を予定
（所在地：東京都新宿区山吹町 358-5）
*詳細は学会ホームページ「資格認定」を参照

生理人類学談話会

会期：第3回 2010年12月11日
第4回 2011年3月5日
場所：東京
連絡先：工藤奨（芝浦工業大学）
kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

第5回研究奨励発表会

会期：2010年12月
場所：東京
連絡先：工藤奨（芝浦工業大学）
kudous@sic.shibaura-it.ac.jp

from Editors

次号（9月末発行）の原稿締切は8月31日（火）

▽今回のPANews 7月号をご覧になられてお気づきのとおり、内容は久しぶりに盛りだくさんとなりました。冒頭の目次に11項目が並ぶのはこれまでで最多ではないかと思えます。いつもこれほどであればよいのですが・・・デコボコはある程度避けられないものの、できるだけコンスタントな質量を維持できるよう、引き続き頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

会報担当理事：岡田 明（大阪市立大学大学院）
福島修一郎（大阪大学大学院）

PANews 編集事務局：
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学大学院生活科学研究科
居住環境学講座 岡田明
e-mail akira.pegasus@nifty.com
〒560-8531 豊中市待兼山町 1-3
大阪大学大学院基礎工学研究科
生体計測学講座 福島修一郎
e-mail fukushima@me.es.osaka-u.ac.jp